

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番 号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☒ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☒ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・地域ケア個別会議を定期的に開催、一人でも多くの介護支援専門員や多職種に参加を促し、多職種協同の介護予防ケアマネジメント、自立支援の在り方を共に学ぶ。 ・地域ケア個別会議が持つ機能展開に取り組む。 【課題】 ・専門職においては、アセスメントの重要性や自立支援の考え方、アプローチ等の認識が広まり、一定の効果は確認できているが、高齢者の増加に伴い、介護保険や自立支援のみでは対応が出来なくなってきた。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・地域ケア会議を通じて育成された各専門職の強みを生かし、自立支援にとどまらず、随時の相談窓口機能、介護予防などの普及、啓発や実践指導など、機能分担しながら進めていく必要があり、これまでに育んだチーム機能を働かせ取り組んでいく。	地域ケア個別会議を年14回開催されており、介護支援専門員のみならず多職種の参加が行われています。助言者含めて全員にアンケートを取り、質の向上に取り組んでいます。多職種連携、社会資源の考え方にも取り組みたいという視点で行われており、専門職の自立のとらえ方が訂正できないと利用者に伝わらないという課題から、意識変革に繋げられる取組が必要と分析されています。目標をしっかりと立てる視点を育成し、意識づけをするような質問を投げかけるなど、資質向上に繋げるための取組が実践されています。

千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☐ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☒ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・全事業を通じて地域包括支援センターの広報を行い、地域ケア会議や関係機関訪問等で関係づくり・連携に努め、相談の入りやすい環境づくり、解決に向けた各機関と連携ができる体制づくりに取り組む。 【課題】 ・高齢者人口の増加に伴い、相談件数の増加が認められる。また、時代背景から、家庭環境の多様化・複雑化している。家庭の中に要援護者が複数人いるようなことも散見しており、対応力の強化と障害福祉や社協など更なる連携が必要となる。	複合課題を抱えるケースに対して、3 職種のみに留まらず、他サービスや社会資源も巻き込んだ、連携した支援の提供に取り組まれています。市民が総合相談を利用しやすい環境作り、連携をもって対応出来る環境作りを重点的に取り組まれています。社会資源を含めた多職種連携で複合課題の解決に向けた取り組み実施が確認できました。 これらの取り組みを通して、複合課題への対応力強化が期待されます。

千里地域包括支援センター

		【改善の方策と次年度の取組み】 ・各制度について熟知し、各関係機関との連携強化を通じ重層的支援体制づくり、更に、住民を巻き込んだ解決機能を推進する。	
--	--	--	--

千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☒ 地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・校区毎の地域ケア会議へ多職種や地域資源への参加を働きかけ、課題と共有、取り組みの方向性を検討。切れ目のない関係づくりに努め、連携・協力・共同体制の構築を図る。地域資源マップの更新を行う。	地域ケア会議では、参加されない医療機関にはコメントをもらい発表する等、参加方法にも工夫されており、広く声をかけて圏域内の全校区で開催されています。大事な顔合わせの場として活用し、地域に対して「大事な会議」という意識付けが浸透しています。成果を伝える場であることも伝えるために前回開催時の課題等に対し、実現したことや取り組まれた成果についての報告も行う事で、地域全体の資質向上が図られています。 これらの取り組みを通して、ニュータウンの建替え等による環境やコミュニティの変化に対しても、地域資源の活用や多職種連携により、地域ぐるみで取り組まれることが期待されます。
		【課題】 ・ニュータウン建て替えによる環境やコミュニティの変化、支援制度も制限がかかってきている現状に対応していく必要がある。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・コロナ禍にも対応し、切れ目のない支援体制づくりを継続・更新していく。地域ケア会議においては、必要に応じて、規模や開催方法を変え実施する。	

千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☒ 多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☒ 体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・継続している自主グループの支援を行いながら、新たな集いの場の普及・啓発を行い、介護予防の取組みを推進、セルフケアへとつなげられるよう取り組む。 自主グループへ SNS による定期情報提供、お散歩マップを各校区毎作成、健康手帳等の配布、活用に取り組む。	通いの場への継続した参加を大切にされており、毎回参加者アンケートを採り分析することで、参加者の満足度と興味を高め、継続していける環境作りが行われています。また、体力測定会でも同様に、毎回必ず参加者アンケートを採り、分析することで、継続した参加となるよう検討されています。 通いの場や体力測定会の定着が推進されていますが、一過性で終わらせないための工夫に今後も期待されます。
		【課題】 ・これまでの情勢（要支援認定者の増加やサービス利用状況等）から、共生やセルフケアへの取組みについて、住民意識が醸成されていないと考えられ、より一層の働きかけや工夫が必要となる。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・これまでの関係機関との連携強化、介護予防センターや保健所等との連携などを通じ、体操のみならず住民主体の活動など啓発していく。地域資源の更なる活用に取り組みセルフケアの定着を図る。	

千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 嘱託医のみならず、地域の医療機関や関係機関や地域住民と連携し、相談の入りやすい環境づくりに努める。また、必要な支援につなぐ。認知症サポーターの証となるオレンジリングとともに、受講者に気軽につけてもらえるようオレンジストラップを独自に作成、配布。認知症サポーター養成講座に取り組む。	認知症カフェの本来持つべき役割と内容を踏まえ、当事者や家族が集える場となるよう配慮されています。福祉委員・民生委員や地域の NPO 団体等と協働で認知症カフェの開催が毎月定期的に行われており、当事者を含めた場が機能しています。当事者参加による啓発効果は非常に高く、理解の促進にも繋がられています。
		【課題】 ・地域全体に高齢化が進んでおり、認知症について正しい知識の習得や理解を進めていくことが急務である。また、サポーターが活躍出る場も必要である。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・新たな認知症カフェの立ち上げ支援にも取り組みながら、既存の集まりの場にも同じ機能を持たせる。関係機関と連携し、専門職の派遣や個別の地域ケア会議などにより、住民相互の気軽な助け合いや支えあいの醸成が図られるよう取り組む。認知症サポーター養成講座の定期開催を行う。	

千里地域包括支援センター

資料 1